

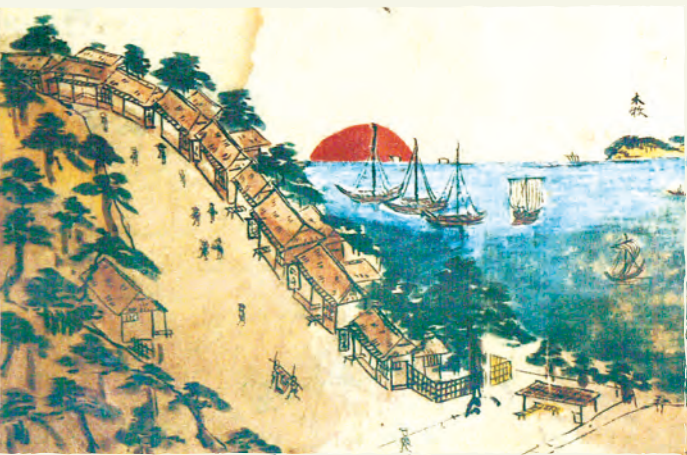
## 上台橋

「神奈川宿歴史の道」は、西側の上台橋より始まります。

かつてこのあたりは、潮騒の間こえる海辺の道でした。この場所から見えた朝日は、ひときわ美しかったのでしょうか。『神奈川駅中図会』にも、その姿が描かれています。

この地に橋ができたのは、昭和五年（一九三〇）。開発がすすみ、切り通しの道路ができるとともに、その上に橋が架けられたのです。

この橋を渡り東へ坂道を上りきったあたりに、関門跡の石碑が建っています。



「神奈川駅中図会 西台之図」横浜市歴史博物館所蔵

## 台町の茶屋

現在の台町あたり、ここはかつて、神奈川湊を見おろす景勝の地でした。

弥次さん・喜多さんが活躍する『東海道中膝栗毛』にも、「爰は片側に茶店軒をならべ、いずれも座敷二階造、欄干つきの廊下棧などわたして、浪うちぎはの景色いたつてよし」とあります。「おやすみなさいやーせ」……茶店女の声に引かれ、二人はぶらりと立ち寄っています。鯨の塩焼をさかんに一杯ひっかけた後、気ままな旅を続けたのでした。

下の図の中に見える「さくらや」が、現在の料亭田中家のあたりだといわれています。



「金川砂子 台町茶屋」国文学研究資料館所蔵

います。この付近の地形は、今でも旧東海道の面影を残しています。

## 神奈川台の関門跡

台町のこの周辺に、神奈川台の関門がありました。

開港後、外国人があいついで殺傷されましたが、その犯人はなかなか捕えられませんでした。イギリス総領事オールコックを初めとする各国の領事たちは、幕府を激しく非難しました。そこで幕府は、横浜周辺の主要地点に関門や番所を設け、警備体制を強化しました。

この時、神奈川宿の東西にも関門がつくられ、そのひとつが西側・神奈川台の関門です。

関門では刀を持って開港場に入ろう

## 大綱金刀比羅神社

田中家の前をさらに下ると、大綱金刀比羅神社の前に出ます。この神社は社伝によると平安末期の創立で、もと飯綱社といわれ、今の境内後方の山上にありました。その後、現在の地へ移り、さらに琴平社を合祀して、大綱金刀比羅神社になりました。かつて眼下に広がっていた神奈川湊に出入する船乗り達から深く崇められ、大天狗の伝説でも知られています。



## 埋立と高島嘉右衛門

「神奈川宿歴史の道」には、関門跡から旧街道を離れ、この街道と並行して丘の上を通り青木橋に至る、もう一つのルートがあります。静かな山の手の坂道を抜けて行くと、すぐ下に旧街道を見おろす丘の上に出ます。

鉄道用地の埋め立てに力を尽くした横浜の実業家が、高島嘉右衛門です。嘉右衛門は、請負業を始め、学校・ガス会社・芝居小屋などを経営し、高島易断を創始するなど多彩な活動をした人物です。

彼はこの丘の上から埋め立てを指揮



「高島嘉右衛門の肖像」横浜開港資料館所蔵

し、後年この地に住みました。そのため、埋立地は高島町、この丘は高島山と呼ばれるようになりました。現在の高島山公園には、嘉右衛門を顕彰する「望欣台の碑」が、そのすぐ西の住宅地には「高島易断の碑」が立っています。やがてこのあたり一帯は埋め立てられ、古い「神奈川湊」から新しい「ミナトヨコハマ」へと姿を変えていきました。

## 本覺寺

坂道を下っていくと、本覺寺の山門前に出ます。

開港当時、アメリカ領事館に充てられたのが、この本覺寺。神奈川領事であったドーアは、庭の松の枝を払い落とし、この木の上に星条旗を掲げたといわれています。さらに、この寺の本尊を板囲いで覆い、山門をペンキで塗り、日本人の立ち入りを禁じたといわれています。

安政五年（一八五八）日米修好通商条約締結に際し、アメリカ公使ハリスとの交渉にあたった全権委員・岩瀬忠震を記念する石碑が境内に建てられています。



## 一里塚跡

江戸時代には、大綱金刀比羅神社前の街道両脇に、日本橋より七つ目の一里塚が置かれていました。

一里塚とは江戸の日本橋を起点として一里（約四キロ）ごとに置かれた塚のことです。

下の図の中ほど、街道北側に、その姿が描かれています。土盛りの上に桜が植えられた大きなものでした。

現在の大綱金刀比羅神社の鳥居横あたりが、その塚跡といわれています。



「神奈川駅中図会 一里塚三寶寺飯綱社之図」横浜市歴史博物館所蔵

## 三寶寺

三寶寺で忘れてはならない人物として、嘉永四年（一八五二）に住職になった、第二一世住職弁玉和尚がいます。

和歌の長歌を橘守部に、短歌は岡部東平に学んだ弁玉は、江戸末期から明治初期にかけて活躍した歌人でもあり、文明開化の新事物を詠いました。

昭和五十年（一九七五）、開宗八百年を記念して、約十メートルの高架柱上に本堂を新築し、市内でも珍しい建造物の寺院となりました。

